

立山黒部ジオパークの現状と課題 ―条件付き再認定を受けて― Present situation and issues of the Tateyama Kurobe Geopark after Yellow card

*山岡 勇太¹、竹内 章¹、飯田 肇²、今井 喜義¹、金子 一夫¹、志村 幸光¹、稲村 修³、王生 透⁴、今堀 喜一¹、小谷 智志¹

*Yuta Yamaoka¹, Akira Takeuchi¹, Hajime Iida², Kiyoshi Imai¹, Kazuo Kaneko¹, Yukimitsu Shimura¹, Osamu Inamura³, Tohru Ikurumi⁴, Kiichi Imahori¹, Satoshi Kotani¹

1. 一般社団法人立山黒部ジオパーク協会、2. 富山県立山カルデラ砂防博物館、3. 魚津水族館、4. 黒部市教育委員会生涯学習課

1. Tateyama Kurobe Geopark Society, 2. Tateyama Caldera Sabo Museum, 3. Uozu Aquarium, 4. Lifelong Learning Division, The Board of Education, Kurobe City

立山黒部ジオパークは、富山県東部の9市町村と富山湾の一部から構成される日本ジオパークであり、標高3000 m級の立山連峰から水深1000 mの富山湾まで、高低差4000 mにも及ぶ空間的広がりをもつ。本ジオパークは、主に地域の研究者が呼びかけ、運営組織は立ち上げ時から地域の経済界が中心となり、行政がバックアップする形で進められた。こうした背景により、国内では唯一、民間組織（一般社団法人立山黒部ジオパーク協会）によって運営されているジオパークである。これまで本ジオパークは、自治体や大学、博物館等と連携しながら活動を展開してきた。現在では、地元の企業や民間団体が、ジオパークを取り入れた活動を行い始め、地域内でのジオパークが果たす役割は徐々に拡大しつつある。しかしながら、2018年の日本ジオパーク再認定審査の結果は、2年間の条件付き再認定となった。指摘された主な事項は（1）ジオパーク活動に対する関係者間の認識のばらつき、（2）保全に関する計画や取り組みが不明瞭な点、（3）主要な観光ルートでの可視化やジオパーク看板の数、（4）提供している解説内容の難しさである。これらの指摘に対して、日本ジオパーク委員会の助言を得ながら、課題解決に向け計画的に取り組んでいきたいと考える。今回は、立山黒部ジオパークのこれまでの取り組みと今後の課題について、再認定審査の結果を踏まえながら報告する。

キーワード：立山黒部ジオパーク、ジオパーク、保全、ツーリズム、教育

Keywords: Tateyama Kurobe Geopark, Geopark, Conservation, Tourism, Education